

読書指導と児童委員会の取り組み紹介

豊川市立三蔵子小学校

1 読書の時間と図書室の利用

- ・毎週火曜日、金曜日の朝の学習の時間（15分間）を全校一斉で読書をしています。
- ・1、2年生は低学年図書室、3～6年生は高学年図書室を利用しています。
- ・3年生を対象として、巡回司書による図書館オリエンテーションを行っています。

2 ボランティア・教師による読み聞かせ活動

- ・本校では、地域の読み聞かせボランティア「えん」の方々による読み聞かせを行っています。季節や行事、学年に応じてさまざまな本を紹介することで、多様な本と出会う機会となっています。また、教師による読み聞かせ「おはなしひろば」を月に一度行っています。管理職、担任、担任外の先生が月替わりで参加し、1～6年生の各クラスで読み聞かせをします。普段かわりが少ない学年の先生の読み聞かせを聞くことができる貴重な時間であり、子どもたちは「今日はだれが来てくれるかな？」と毎回楽しみにしています。



【教師による読み聞かせ】

3 図書委員会の取り組み

- ・今年度、前期の図書委員会では「みんなに本を読む楽しさを知ってもらい、また図書室に来てもらおう」と目標を掲げ、日々の委員会活動に取り組んでいます。
- ・図書委員会では、長休み（2限と3限の間20分）と昼休みに図書当番の活動として、貸出・返却のカウンター業務を行います。昨年度は、大規模改修工事の影響で図書室が常時開館できず、パソコンでの貸出や返却もできませんでした。今年度は本のバーコードを読み取っての手続きに戸惑いながらも、何度か行うことでスムーズに貸出や返却ができるようになりました。また、本の貸出以外にも、本の整理整頓やポスター作り、巡回司書と一緒に本の修理などの作業に取り組んでいます。
- ・本校は年に3回、読書週間を設定し、読書活動に取り組んでいます。読書週間中に多くの本に親しんでもらおうと図書委員会の子どもたちが企画を考えています。本年度は「本とお楽しみぶくろ」を考案し、図書室に配架しました。お楽しみぶくろには本が1冊入っており、中身が見えないようになっています。表紙には「こわ～い話が好きな人へ」「動物が好きな人へ」とおすすめする子に向けて簡単な紹介文が書かれています。本を読みたい子は、借りるまで中身を開けることができないので、わくわくしながら本を借りる様子が見られました。読書期間中には、多くの子が図書室に来て「本とお楽しみぶくろ」を手取る姿が見られました。



【図書委員が作成したポスター】



【本とお楽しみぶくろ】

◇図書館の運営にかかわり、本校の子どもたちは本が好きな子が多いと感じました。本に親しみ、楽しんで読書をしたり、主体的に図書館を利用したりする子どもを育てるためには、図書担当や図書委員会だけでなく、多くの先生方や巡回司書、読み聞かせボランティア、地域の図書館などと連携・協力することが大切であると感じました。今後も子どもたちの読書の充実や学習情報センターとしての役割を担う学校図書館をめざして、図書館教育に取り組んでいきたいと思ひます。